

# 名鉄広見線(新可児駅~御嵩駅)の利用状況

名鉄「広見線」の利用状況はどのようにかわってきているのでしょうか…!?

ここでは、平成9年度から23年度までの15年間の状況を見てみましょう。

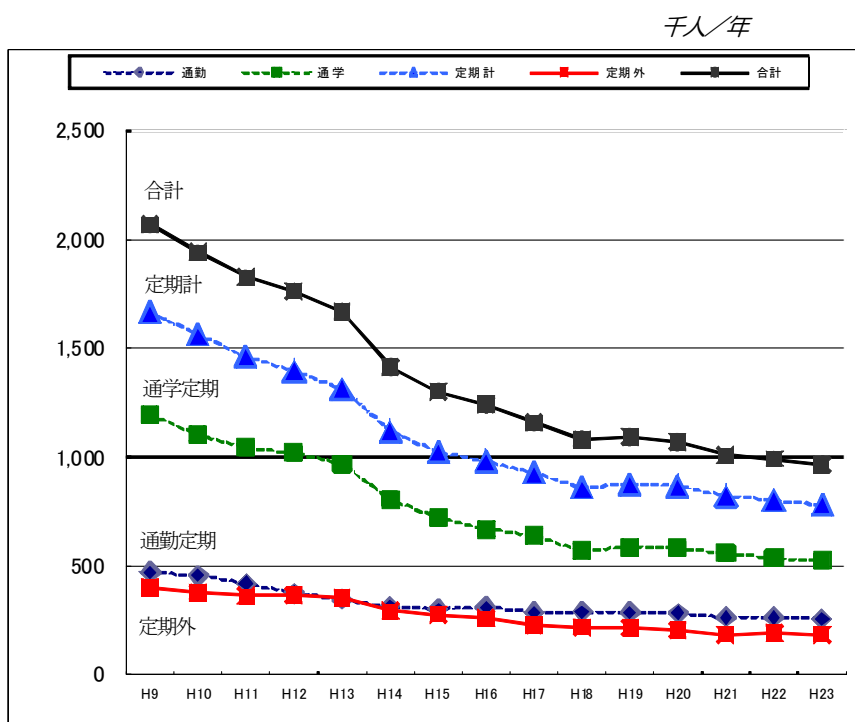
- \*営業キロ 7.4キロ
- \*駅数 5駅(新可児、明智、顔戸、御嵩口、御嵩) \*有人駅 新可児駅
- \*基本ダイヤ 2本/時間
- \*運行本数 80本/日(平日) 72本/日(土曜・休日)
- \*列車組成 2両

輸送人員 (単位:千人/年)

	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
通勤	472	458	420	377	346	313	302	312	288	290	289	285	264	266	257
通学	1,195	1,106	1,043	1,021	969	808	721	671	641	570	588	582	559	536	524
定期計	1,667	1,564	1,463	1,398	1,315	1,121	1,023	983	929	860	877	867	823	802	781
定期外	403	378	364	368	354	295	280	259	229	221	218	205	186	193	186
合計	2,070	1,942	1,827	1,766	1,669	1,416	1,303	1,242	1,158	1,081	1,095	1,072	1,009	995	967

\*平成13年10月1日より八百津線(明智-八百津)廃止

## この状況をグラフにしてみると…



平成9年度と23年度の利用状況を比較すると、通勤の利用が4割以上、通学での利用者は5割以上減少している状況がみとれます。

これに並んで、定期外での利用者も約半数に減少しており、少子化にともなう「広見線」利用者の大幅な減少が大きな原因のひとつといえます。

通学定期利用者が全体の5割以上を占めている広見線は、学生の減少は利用者減に直結しています。